

令和6年度里庄町地域公共交通会議 議事録

と き 令和7年1月10日（金）

14：00～15：15

ところ 里庄町福社会館2階 研修室

1. 開 会

- ・ 出席者 委員13名
- ・ 欠席者 玉島警察署 白神委員
新庄グリーンクレスト地区代表 谷野委員
新庄地区代表 遠藤委員

2. 町長挨拶

（加藤町長 挨拶）

令和5年3月に町における公共交通のマスタープランである里庄町地域公共交通計画を策定して以降、タクシー料金助成事業や路線バス寄島里庄線などに対し、皆様に意見をいただきながら事業を進めてきた。令和6年度は高齢者、妊婦、子育て世帯の方を対象に実施するタクシー料金助成事業について、タクシー料金の改定等の状況を踏まえて、月1枚チケットを増やし助成額の拡充を図った。

本日はこれらの取り組みや課題を評価検証し、これからの改善策を考えていく場として、ぜひとも活発な協議を進めていければと考えている。少子高齢化が進んでいる我が町で、町民の方にとって、より利便性が高く、安心して生活できる移動手段となるよう、また、運行事業者の皆様や自治体にとって持続可能な交通インフラを維持できるよう、それぞれの立場から貴重な意見をお聞かせいただければと思う。

3. 議事

（渡邊会長 挨拶）

令和5年3月に計画を作り、その後着実に事業を進めてきていただいている。本日はその評価と次年度の計画について、議論をいただきたいと考えている。加えて、この計画の中でも里庄町の公共交通はタクシーだということで、タクシー事業者には大変お世話になっている。そういう意味で、その後の運行状況等について教えていただき、住民の方には、まだこういう部分が不便、不安だということがあれば意見をいただければと思う。

（1） 里庄町地域公共交通計画の評価指標の進捗状況について（報告事項）

（2） 里庄町地域公共交通計画に基づく新年度実施計画について（協議事項）

- ・ （1）及び（2）を一括議題として、別添「里庄町地域公共交通会議 会議資料」に基づき、事務局から説明

- (渡邊会長) 説明に対し、質問および意見はあるか。
- (吉田委員) タクシーの利用が増えており、公共交通が非常に厳しい中で明るい報告がいただける数少ない自治体だと思っている。町として目標の中で財政負担の額があると思うが、多くの自治体では財政負担を何とか絞って少なくしていこうという中、しっかりと支援をしていこうと高い目標を挙げていただいている。今これだけのチケットの用意があるので、ぜひもっとチケットの利用率を上げるように、対象者が母だけではなく父も使えるという事を周知いただくといいと思う。ラッピングタクシーの関係だが、台数はどれぐらい用意するかということを質問したい。もう一点、路線バス寄島里庄線だが、おそらく学生の利用も多くなったことで、昨年より利用が増えている。補助金の推移の説明の際には、物価が上昇する中で経費が上がってきているということだったが、令和6年度は昨年より下がっている。通常ちょっと利用が増えたぐらいでは追いつかないぐらい経費が上がっているのではという考えがあり、もし収入がこれぐらい増えたが支出はどういう努力をされて事業者の方で経費が抑えられているなど、ここに計上できてないけれど実はこういうところに経費がかかっているということがあれば、事業者からも状況がわかれば教えていただきたい。
- (事務局) まず1つ目のラッピングタクシーの台数についての質問だが、旭交通里庄株式会社、有限会社里庄タクシー、それぞれ各社1台ずつで、資料の写真の通り、白のタクシーが1台、黒のタクシーが1台、計2台となる。同時にお披露目出発式を行い、運行を継続していこうと考えている。
- 続いて、資料29ページの路線バス寄島里庄線の里庄町の運行補助金の推移について、令和4年度までは、年間170万円程度を推移していた。令和5年度に補助金額が上がっている要因については、一番はバスの修繕費で、当初想定していなかったものがかった。また、令和6年度も大体同規模になる見込みだが、こちらは車検の費用などもかなり上がっていると聞いており、さらに物価高騰の影響を引き続き受けていると考えている。運行収入については、大体年間70万円から80万円程度を推移している。利用者がグラフ上はかなり増えているようには見えているが、振れ幅がこれぐらいの規模なので、当然赤字を十分補填できるほどの収入は確保できない状況にあると考えている。
- (吉田委員) ラッピングタクシーは運が良ければ迎えに来てもらえるという、ラッキーみたいな部分もあるということか。この車でお願いということもできるのか。できたら乗りたい、みたいなこともあるかと思うのだが。
- (小川委員) 弊社では指名予約は原則断っている。
- (吉田委員) 広島ではカープのラッピングタクシーが来ると非常にラッキーに思う。ぜひ皆さんに使っていただければと思う。路線バス寄島里庄線の方も令和5年度が特に費用がかさんでおり、令和6年度には少し下がっているが、利用が増えたことによるものというよりは、昨年度と比較したら費用が下がっているということでは。

- (坂本委員) 令和5年度の経費だが、一気に上がっている理由を説明させてもらう。車両がものすごく古い。令和5年度は一気に故障が続発した。基本的には車両を買い替えるのが筋だが、そういうことも現状できない。この質問について運輸局の方が言われていたが、売上から経費を引いたものではなく、経費から売り上げを引いた額をいただいている。インセンティブはどこにあるのかというと全くない。私は運輸局へ路線バスをやっている事業者は、何が面白くてやっているのかという質問に行った。そうするとインセンティブがあるからだと言ったが、現状インセンティブは何もない。また、令和6年度は学生の利用が増えているが、来年度はどうかというのと何とも言えないし、寄島自体が中学校と小学校が統合して、ニーズが減っている状況なので、このままの数字がキープできるとは思わない方がいいと思う。車両についても、もう買い換えるのが筋だと思うが、車両代というものを基本的にいただいていない。これは浅口市と交渉に交渉を重ねた結果、結局いただけないことになっている。例えば、当初300万円で購入した車が、現在価値がゼロだ。次買い換えたときに、私の持ち出しになるので、結局どこかで話をつけない限り、車を買換えることは、経済的な面からでもできかねる。できる限り意地でも続けたいとは思っているが、現状厳しい中でやっている。
- (渡邊会長) なかなか厳しい状況だということだが、広島だと上下分離方式のような形で、バスを公共が持って、運行を民間の交通事業者にお願いするようなことも考えられているようなので、そういう可能性もこれから探っていく必要があるかもしれないと感じた。
- (小野委員) 2点伺いたい。高齢者タクシーの助成事業について、去年から比べたら今年は月1枚増やしたとか、そんな小さいことを言わず、タクシー代も上がっているのだから、さらに2倍とか3倍とか増やして利便性を上げるほうがいいのではないかなと思うが、その辺りどう考えられているのか。もう一点は、まとめの資料で書かれていたが、デマンド方式について、タクシー会社と協力していかなければ難しい問題ではあるが、町民の意見、対象者の意見を聞く、トライアル的に取り組んでみるというような、素早い動きをしてはどうか。
- (事務局) チケットの枚数を月1枚と言わず、もっと増やした方がいいのではないかなという意見だが、事務局としてもそのように思っているところだが、町の財政事情もあり、バランスを見ながらやっていきたいと思っている。また、デマンド型交通の関係だが、今回の計画期間内は、タクシー、路線バスなどに力を入れて進めていけたらと考えている。
- (小野委員) デマンド型になってもタクシー事業になるのだから、タクシー会社と町との契約になるはずだ。料金も100円なり200円なりもらっているのだから、そういう方向で考えれば、まるっきり出費ばかりではないと思う。勉強してほしい。
- (事務局) 今後、他の自治体の情報収集をしながら、研究を進めていきたいと思う。

- (渡邊会長) タクシー事業者に話を聞かせてもらいたい。資料7ページに令和4年度見込みが年間3万人、目標を現在3万3千人にしているが、実際は3万9千人とデータ上には出ている。運行への支障の有無、非常に売り上げが上がって嬉しいなど、状況を教えていただきたい。
- (大賀委員) 非常に売り上げがあつて嬉しいというほどではないが、チケットがこの計画で増えたことによって、高齢者が買い物、通院に使っているということは、チケット枚数や売り上げを見て、大変大きな伸びを実感している。ドライバーの確保はできているが、その中身の問題で、笠岡、井笠、浅口郡のドライバーの平均年齢70歳くらいだ。倉敷でも事業しているが、倉敷は大体50～53、54歳くらい。70歳になると、体調を崩していつ退職してもおかしくない。退職されてすぐ次が採用できるかというとなかなか難しいエリアだ。我々の倉敷の会社にも浅口郡から通勤される方も数多くいるが、地元でタクシーに乗る方は年金もらわれている方が主体。ドライバーが今は確保できていても、辞めたときにすぐ次の補充がなかなか難しい。もう一点、今は年間3万9千人～4万人を目指すことや、人口維持、増加に持っていくことを考えられていると思うが、昼だけの利用ではなく夜、終電でお酒を飲んで帰る、部活や塾で遅くなっても公共交通で安心して家に帰れるようになるかが課題。駅前のロータリーが整備されてないので、自家用車とタクシーでせめぎ合いだ。長い目で見ると、今の中学生・高校生が大人になってこちらに帰ってくるかどうかの問題だと思う。駅前が車で走っても朝大変、終電降りてタクシーが1台しかいない、お酒飲んで帰ってもタクシーがいないなど、一人暮らしの方は特にそうだと思うが今すぐの問題だ。高齢者対策はチケットで目の前の課題に対応しているが、先々を見ていると今の中学生・高校生・大学生の子がこちらに帰ってきて生活するかという話になると、それは別問題だと思う。
- (小川委員) 弊社は完全赤字会社だ。なかなか黒字に転換ができていない。乗務員も少ない。5台登録しているが、実際の運行は3台。乗務員が3人、1人は岡山市から、1人は倉敷市から通ってくれている。一番新しいドライバーは地元。1人10時間拘束の8時間勤務で、1日2～3万円しか売り上げが上がらない。そんな世界のタクシーで生活していくのは、募集をかけてもなかなか来てくれない。乗務員をもっと充実させないといけない。早朝や夜遅い時間帯は旭交通里庄に助けていただいている。弊社は7時から18時しか運行ができない状況。これがもう本当に情けない限りだ。タクシーチケットも本当ありがたい。旭交通里庄と比べたら比べ物にならないが、よく使っている。先日、毎年紙切れになるのだという高齢男性が来た。毎年申請しているのに1回も使ったことがない、どうやって使うのかという高齢男性に丁寧に説明をした。紙切れにならないように、3月末までに使い切るように伝えた。里庄の場合は使用枚数の制限がない。笠岡市のタクシーチケットは2枚までしか使えず、1枚出したら基本料金、2枚出したら500円券に変わる。ややこしいものは使わなくなるので、補助制度はわ

かりやすさを一番大事にしていきたい。

(渡邊会長) 話の中で、JR里庄駅のバリアフリー化の話があったが、バリアフリーももちろん大事だが、思い切って改札口をもう1個作るとか、それによってタクシー、自家用車を分けるとか、そういったことで少し進められるといいのではないかと話を聞いて思った。住民の方からも何か気づきがあれば、お話いただきたい。

(妹尾委員) 補助事業のタクシー会社の件だが、高齢者のタクシー会社と子育て支援のタクシー会社を見比べると2社入っていない。これは何か理由があるか。

(事務局) 2社の登録が子育て世帯応援タクシー料金助成事業の方でない件について令和6年度から笠岡市と浅口市の事業者にも拡充し、高齢者タクシー料金助成事業で登録をいただいている事業者に事前に案内した。金光タクシーからは、子育ての場合はそこまで事業規模が大きいこと、里庄から鴨方を挟んで距離もあるので利用も少ないだろうということ、乗務員の教育コストやチケットが何種類もあると混乱を生むということで、登録辞退の申し出があり見送った経緯がある。もう一方の神島タクシーは、運行ができる台数がないという話をいただいたので見送った。

(堀委員) チケットをもらってありがたいという高齢者の方の話ばかりだが、乳幼児健診を受診する際に祖母が2歳半ぐらいのお子さんを連れてこられている。タクシーチケットは、申請世帯に配られるとのこと。世帯で申請してもらえということなので、世帯に入っていない祖母はチケットを使えるのか使えないのか。もし使えるのであれば、健診に来られたときに祖母もチケットが使える旨をお知らせできる。

(事務局) 子育て世帯応援タクシーチケットを利用できる方について、事業の名称と実態が若干異なるところがあるが、事業上わかりやすくするために「世帯」と書いている。実際には、利用できる方はタクシーの表面に利用できる方の名前を書いている。妊婦や、3歳以下の子の保護者の方で、あらかじめ申請いただいた父、母を書きいただき、町で審査した後、この人は利用しても大丈夫ということでチケットを発行し、タクシー事業者もそれを確認し、受け取るルールにしている。世帯だったら誰でもいいということは現状の制度ではできない。

(堀委員) 申請の時に、祖父母の名前を書けば利用できるか。

(事務局) それであれば利用可能だ。対象の子の保護者であれば誰でも大丈夫だ。ただ、チラシのイラストなどは父母のイメージで書いてしまっているところはある。その辺りは相談に応じて、丁寧にフォローしていきたいと思っている。

(堀委員) 可能性のある人は全部名前を書いておけばいいということか。

(事務局) そうだ。父と祖母などというように書いていただけたらと思う。

(坂本委員) 年末に子育て支援のチケットをお客さんからいただいた。その際、名前が入ってなかったのだが、これは無効か。

(事務局) ホッチキス止めのチケット綴りの一番表には利用者の名前が書いてある。

今年度からチケットのデザインを見直し、チケット自体に1枚ずつ利用者の名前を直筆で書くことは廃止している。チケットの右上にID番号が書いてあるので、これを役場で把握している。よって、チケットに記載するのは、運行事業者の名前か判子を押して役場へ出してもらうようになっている。今まで毎回利用者が名前を書くようにしていたが、交付枚数も増えて利用者の手間が多いので、利便性を考慮して今年度からこの形にした。高齢者タクシー料金助成事業も同様だ。

(吉田委員) 里庄町の会議資料と別に、机の上にカラーの横向きの資料を配布している。年末に来年度予算が決定し、公表しているものを情報共有する。国土交通省の予算の中で、交通空白の解消に向けた地域交通リデザインの全面展開ということで、公共交通の足の確保事業の補助金であったり、先ほど小野委員からもあったが、例えば実証運行に関する費用であるとか、様々なメニューを国交省も用意している。令和6年度予算、前年度比でリデザイン関係の予算についてはおよそ2.5倍の予算確保をしている。公共交通の交通空白を解消するために使っていただくということで、今まであったバス・タクシー以外に、公共ライドシェアといって自家用有償や、既存のタクシーを活用したものもある。人材確保のためのセミナー実施、効率化のためにDX化など、様々な予算を国で展開している。この中で使えるメニューについては、来年度の活用に向けて案内していきたい。ぜひ様々なメニューを活用いただき、各自治体の公共交通の推進に向けて支援ができたらと思う。こういうことを来年度やるのに、こんなのどうかなというのがあれば運輸局に相談をいただきたい。交通計画の関係も、中段の方に交通計画協議会のアップデート支援とあるが、現在策定している交通計画の内容をアップデートしたいことがあれば、その計画を考えるための住民調査なども対象になる事業や、里庄町だと既に目標値を達成しているので、今後、新たな項目を立てるのに改訂されることもあるかと思う。主に事務局になるかと思うが、ぜひ相談いただければと思う。

(小川委員) 里庄町の新年度の一般会計の予算の中に、高齢者タクシーの助成事業の費用と、子育ての助成事業の費用というのは100%で要求しているのか、実態に沿って要求しているのかで、助成事業に対する熱量が違うのではないかと思うのだが。数字は把握してないのだけれどどうか。

(事務局) 予算査定中だが、前年度と同じベースで予算要求を行っていきたいと考えている。

(小川委員) ということは、もうちょっと力を入れようというものではないのか。

(加藤町長) 状況を見ながらと考えている。ただ、全体の予算があるが、私としてはタクシーの助成事業は、できるだけ充実させていきたいと考えている。高齢者の足の確保と同時に、タクシー事業者の安定的な経営に繋げていかないといけないと考えている。予算要求と実態を見ながら、最終的には判断していきたい。